

会議報告

平成21年度動物衛生試験研究推進会議の概要

KAWASHIMA Kenji

企画管理部業務推進室 企画チーム チーム長 川 寫 健 司

平成21年度動物衛生試験研究推進会議が平成22年2月18日（木）に動物衛生研究所本所講堂において開催されました。

参集者所属（人数）は以下の通りです。外部委員（1；社団法人畜産技術協会）、農林水産省農林水産技術会議事務局（2）、農林水産省経営局（1）、農林水産省消費・安全局（3）、農林水産省動物検疫所（1）、農林水産省動物医薬品検査所（2）、農業・食品産業技術総合研究機構（1）、中央農業総合研究センター（1）、畜産草地研究所（1）、食品総合研究所（2）、東北農業研究センター（1）、近畿中国四国農業研究センター（1）、農業生物資源研究所（2）、家畜改良センター（1）、農林水産消費安全技術センター（1）、北海道立畜産試験場（1）、栃木県県央家畜保健衛生所家畜衛生研究部（1）、群馬県家畜衛生研究所（1）、岡山県岡山家畜保健衛生所（1）、島根県農林水産部（1）、沖縄県家畜衛生試験場（2）、動物衛生研究所（30）、以上22機関58名。

検討議題は以下の通りです。1. 動物衛生研究を巡る情勢、2. 今年度の研究成果と次年度の研究推進方向、3. 重点研究推進方向、4. 連携・協力に関する事項（他機関からの要望事項）、5. 総合討論、6. 主要研究成果の検討、評価、採択。

1. 動物衛生研究をめぐる情勢

動物衛生研究所企画管理部長が、国内外の家畜

疾病発生の動向をもとにした最近の動物衛生問題と動物衛生研究の取り組みを説明しました。今年度の特記すべき成果として、平成21年2月に愛知県のカウズラから分離された弱毒タイプの高病原性鳥インフルエンザウイルスや豚インフルエンザウイルスの遺伝子解析や分子疫学解析、非定型BSEプリオンの性状解析と牛への伝達試験、アルボウイルス感染症の発生予察、牛ヨーネ病の遺伝子検査法の開発および近隣国でのA型ウイルスによる口蹄疫の発生に伴う対応準備などが挙げられました。

2. 今年度の研究成果と次年度の研究推進方向

各研究チーム担当の研究管理監・センター長の進行の下で、それぞれの研究チーム長が人獣感染症研究、ウイルス病研究、国際重要感染症研究、プリオン病研究、細菌・寄生虫病研究、ヨーネ病研究、次世代製剤開発、環境性・常在性疾病研究、疫学研究、生産病研究および安全性研究における本年度の研究成果、次年度の推進方向およびそれぞれの中課題を代表する成果を説明しました。また、本年度より、参画都道府県試験場等の家畜衛生担当者が各所の本年度の取組成果、来年度の取組計画について説明し、動物衛生試験研究における推進方向が討議されました。

3. 動物衛生研究の重点推進方向

平成21年度以降におけるトピック的な取り組みとして、「地方病性牛白血病の我が国における清浄化に向けて」ならびに「アフリカ豚コレラおよび小反芻獣疫の診断技術の開発」の2つの課題について担当者から説明し、討論が行われました。

会議報告

4. 連携・協力に関する事項（他機関からの要望事項）

農水省消費・安全局から出された「新規技術開発としてレギュラトリーサイエンス事業を立ち上げるので積極的な参画」、「家畜・畜産物輸出入に伴うリスク評価への協力」、「鳥インフルエンザワクチン株に関する技術的支援」、「家畜防疫体制と関係機関との連携維持」「現場で利用できる類症鑑別技術の基盤整備」「鶏カンピロバクターに関するリスク管理措置に対する技術的助言」、「薬剤耐性菌のサーベイランス・プロトコール開発に必要な統計学的、疫学的手法の技術的支援」等に関する要望事項に対し、動物衛生研究所の企画管理部長が対応方針の概要を説明し、了解されました。

5. 総合討論

農研機構他の参画研究機関から、食の安全、自給率向上、畜産の振興等に向けた協力要請があり、連携を取りながら研究推進していく方向が議

論されました。

6. 主要研究成果の検討、評価、採択

動物衛生研究所の各研究チーム担当の研究管理監・センター長の進行により、担当研究チーム長が29課題ならびに鳥根県担当者から1課題の合計30課題の主要研究成果候補課題の概要を報告し、質疑と評価が行われました。30課題全てを採択し、総括推進会議に提案することになりました。

外部委員から動物衛生分野の研究推進について述べられた意見は次の通りです。①動物衛生研究はBSEやO157発生以来、畜産振興から安全性研究へシフトしている。健康な家畜の生産、人獣共通感染症対策など、現状の推進方向はそれに沿っている。引き続き、生産現場や消費者の動向を把握し、ニーズに応える研究展開が必要である。②動物衛生研究は、現場を大事にしながらも、他研究所と連携を取りながら技術的なリーダーシップを今後とも発揮してほしい。

TOPICS

第9回TXテクノロジー・ショーケース in つくば 2010 への出展

(財)茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミー主催「第9回TXテクノロジー・ショーケースinつくば2010～『つくば研究祭』&『高校生科学研究発表会』」が、平成22年1月22日（金）、23日（土）の2日間、筑波大学大学会館にて開催されました。今年は、「3E（環境、エネ

ギー、経済）実現のための科学技術と人材育成」をメインテーマとし、「首都圏広域の科学技術産直フリーマーケット」がコンセプトでした。動物衛生研究所からは、人獣感染症研究チームの辻尚利主任研究員が「マダニが教えてくれる感染症制御の手がかり：マダニの吸血・病原体伝搬調節物質」

を、次世代製剤開発チームの彦野弘一主任研究員が「センダイウイルスベクターをもちいた高病原性鳥インフルエンザワクチン」をテーマにした出展をし、活発な研究情報交換と交流を行いました。

（情報広報課）

